

## 県内の死亡事故の特徴等

### (1) 高齢死者は約6割と多く、歩行中・自転車乗用中の死者の7割以上を高齢者が占める

ア 高齢死者は34人(58.6%)と多く、このうち22人(64.7%)が歩行中・自転車乗用中で、これは歩行中・自転車乗用中の全死者(31人、53.4%)の7割以上(71.0%)を占める。

イ 高齢死者34人のうち、65～74歳は10人(29.4%、前年比－8人)と減少したが、75歳以上は24人(70.6%、同＋5人)と増加した。

### (2) 高齢ドライバーによる事故は前年比の約2倍に増加

高齢ドライバーによる事故が約2倍に増加(17件、29.8%、前年比＋8件)し、昼間に14件(82.4%)と多く、事故原因は前方不注意4件、運転操作不適3件で4割以上を占める。

### (3) 二輪車の関係する事故が前年比2倍に増加

二輪車の関係する事故(8件)が、前年(4件)の2倍に増加し、65歳未満(5件)は全て最高速度違反、高齢者(3件)は全て原付の信号無視、一時不停止等が原因である。

### (4) 時間帯は、16～19時台が最多で、うち歩行中・自転車乗用中が多い

時間帯は、16～19時台が18件(31.6%)と最も多く、うち歩行中・自転車乗用中が15件(83.3%)を占める。

### (5) 歩行者・自転車利用者は、横断中が多く、夜間事故の車のライトは下向きが多い

ア 歩行者・自転車利用者の事故は31件で、横断の方向は、昼間は8件中5件(うち高齢者が4件)が左から右、夜間は14件中10件(うち高齢者が8件)が右から左と多い。

イ 車のライトは下向きが多く(19件中17件)、うち12件は上向きが可能であったと思われる。

ウ 夜間歩行中の死者(16人)は、いずれも反射材を着用していない。

### (6) 運転者の事故原因は、脇見運転・最高速度違反が多い

事故原因は、脇見運転(16件)と最高速度違反(14件)が全体の半分以上を占め、中でも単独事故15件中10件(66.7%)は最高速度違反である。

### (7) シートベルト非着用が多く、非着用の約4割以上が車外に放出されている

四輪車乗用中の死者19人中13人(68.4%)はシートベルト非着用(うち5人は車外放出)で、13人とも着用していれば死に至らなかったと思われる。

後席同乗中のシートベルト非着用の死者は2人で、前年比1人増加した。